

第4回新潟地域看護研究会を開催しました

テーマ 事例検討をととして保健師固有の支援技術を学ぼう！

2019年6月15日(土) 場所：新潟大学医学部保健学科

社会人学び直しWG「高度実践看護師等育成事業」では、社会人の学び直しの機会を提供し、新潟県における高度実践看護師等の地域包括ケアを担う保健医療人材の育成と定着化を図るとともに、雇用の創出や拡大を目的に、高度実践看護師等の啓発普及、人材育成プログラムの検討・開発等を行っています。

大学院での研究成果の還元と、高度な実践能力をもつ地域看護専門看護師（以下、地域看護CNS）の活動の普及を目的として、第4回新潟地域看護研究会を開催しました。

地域看護CNSからのコンサルテーションによる事例検討 10:30~12:45

「信頼関係の構築が難しい児童虐待事例に対する支援」

事例提供者：新潟市西区健康福祉課黒埼地域保健福祉センター 保健師 坂井彩夏

相談・助言者：上越市総務管理部人事課 保健師長 小林奈緒子（地域看護CNS）

ファシリテーター：新潟大学大学院保健学研究科 教授 小林恵子

坂井彩夏保健師さんからは、母親（Aさん）が子どもの養育を祖母などに任せきりな中で、子どもにもアザや精神的に不安定な面が見られるネグレクトおよび身体的、心理的虐待の事例が提供されました。保健師として信頼関係の構築に悩むこの事例を素材に地域看護CNSのコンサルテーションを得ながら支援について具体的な検討が進められました。

地区担当保健師として、家庭訪問を継続しようとしても約束を破られたり、電話に応答してもらえないなど、Aさんとの信頼関係の構築が難しく、正確な情報が得られず支援が進まない状況があり、Aさん家族への支援をどのようにすべきか、困難感や葛藤を感じていました。

まず、家族生活力量（家族が健康生活を営む能力）の視点から検討を行い、Aさん家族の生活力量は、「経済・家計管理力」や「関係調整・統合力」が低値であったものの、「家事運営力」や「住環境整備力」などは高値であることが分かりました。次に、サインズ・オブ・セイフティを用いて「私たちが心配なこと」「うまくいっていること」「何が起きる必要があるか」の視点で検討を行った結果、Aさんの子どもたちの安全を守ることを第一に、発育発達に悪影響を及ぼさないよう、1年後にあってほしい姿をイメージしながら、強みを活かした支援を行っていく必要があることが分かりました。





具体的には、ケース会議での支援目標の共有と役割の明確化が必要であることを確認しました。また、母親の強みを認めながら保健師が相手にとって味方であることが分かってもらうことが支援のポイントとなることを確認しました。なかなか、信頼関係を築きにくく、援助関係が成立しにくい母親及び、曾祖母への対応は新任期の保健師にとっては難しいことも話し合わせ、具体的にどのように信頼関係を築いていくか、その技法を丁寧に検討しました。

(参考書籍・文献)

- ・ 家族生活力量モデル アセスメントスケールの活用法 家族ケア研究会 (著) 医学書院
- ・ 千賀則史. 児童相談所における関係性に焦点を当てた家族再統合プログラム—サインズ・オブ・セイフティを活用して—, 子どもの虐待とネグレクト, 14 (1); 58-65, 2012.

○事例を提供して

対象者や家族の強みは何かを考えながら活動しているつもりでも、問題点や課題ばかりに目が向きがちなこと改めて気づきました。相手の強みを見つけ、認めることが第一で、それをしなければ対象者や家族と信頼関係を築くことはできず、適切な支援はできないと学びました。

今回の気づきや学びを今後の支援に生かしていきたいと思えます。(坂井 彩夏)

参加者・アンケート結果

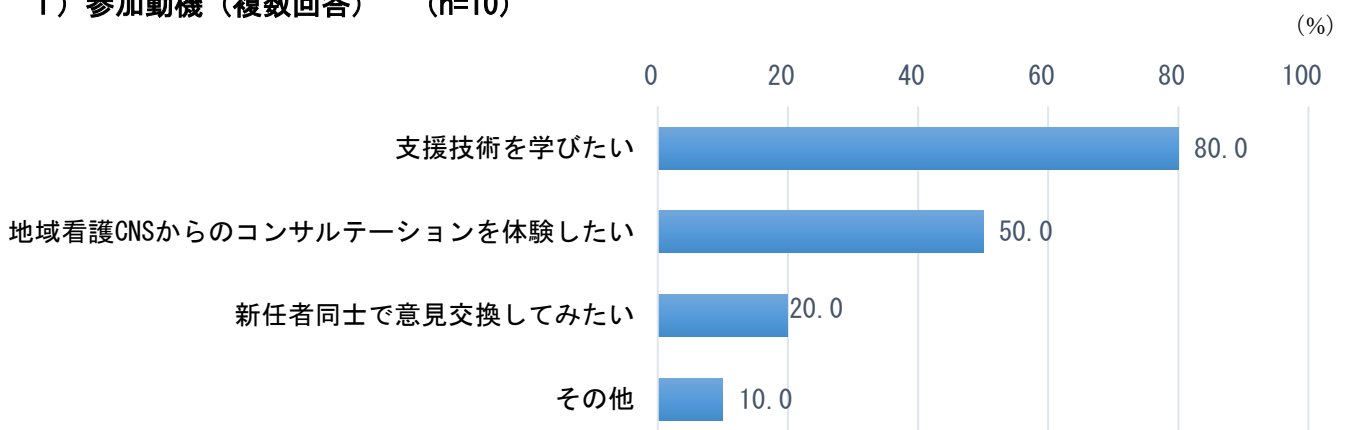
1. 参加者 検討メンバー (保健師) 14名、オブザーバー (学生) 2名、教員5名 計21名

参加者の内訳

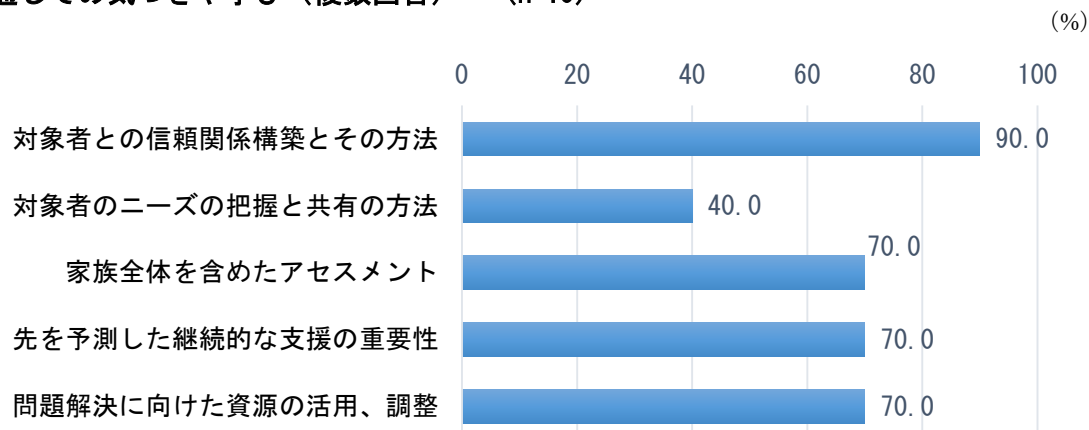
所属	人数 (名)	所属	人数 (名)
新潟県	3	地域包括支援センター	1
新潟市	7	学部学生	2
市町村 (新潟市を除く)	3	新潟大学教員	5
		計	21

2. アンケート結果 (検討メンバーのみ・一部抜粋)

1) 参加動機 (複数回答) (n=10)



2) 事例検討を通しての気づきや学び (複数回答) (n=10)



3) 新潟地域看護研究会にまた参加したいと思うか

「とても思う」60.0%、「思う」40.0%と全員が継続参加を希望していた (n=10)。

事例検討を通しての具体的な気づきや学び (抜粋)

○対象者・家族の理解とニーズを把握することの重要性

- ・ ケースに関わる際には、今、一番どの視点でみるべきかを考える必要があると思った。今回の事例では、まず子どもの安全が第一であるため、役割分担をして事実確認をしていくことが大事だと学んだ。
- ・ 今回の事例のように命の危険がある場合、家族全体の生活状況を把握することが特に重要になると学んだ。
- ・ 対象者との信頼関係構築に向けた関わりについて学ぶことができた。

○対象者の強みをみつけ支援に生かすことの重要性

- ・ 強みの把握が支援方法を見出すことにつながることを学んだ。
- ・ 繰り返し事例検討を行うことが大切であること、強みをみつけていく考え方を優先させていくことの重要性に気づけた。
- ・ 信頼関係を築くうえで相手の強みを認めることができているか、基本的なことだが重要なことに改めて気づくことができた。

○その他

- ・ 担当保健師の考えを整理したり、引き出すという過程を具体的に学べた。
- ・ 高齢者の支援の中でも、同居の構成員に若い方がいるなど、地区担当保健師が対応している事例を知ることができてよかった。
- ・ 自分の担当しているケースでも参考になるポイントを学ぶことができた。

第4回新潟地域看護研究会を終えて

保健師が支援を行う上で、不安や困難さを持ちやすい「児童虐待」への支援がテーマでしたが、“家族の強み”から入ることで、家族との信頼関係の構築につなげていく保健師の力について深められたよい機会だったと思います。

児童虐待の事例では、保健師が考える支援が家族に受け入れられないことはよくあります。今回の事例検討では「虐待等のリスク」「家族の持つ力」などの情報を整理し、家族との信頼関係の構築を目指すことが非常に重要であるということが、参加者間で共有することができていたと感じます。また「地域とのつながりを捉えた支援」についても、参加者から多くの意見が出されており、地域を基盤とする保健師のもつ専門性であると、あらためて気づくことができました。

小林 奈緒子（地域看護CNS）

事例提供者の坂井彩夏保健師さんからは、母親や家族との支援関係を構築することが難しく、支援の手掛かり探っておられる子ども虐待の事例を提供していただきました。

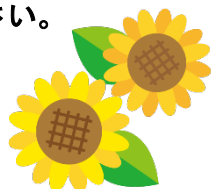
新任期としては非常に対応が難しい事例である中、事例の経過を含め丁寧に状況を把握・整理されていることを全体で確認しました。その上で、家族生活力量やサインズ・オブ・セイフティといった理論や枠組みを用いながら対象および家族の状況を確認し、支援の方向性を整理していくことで、虐待リスクへの対応を最優先しながらも、対象者の強みに視点を当て信頼関係を築く具体的な方法を学ぶことができました。今回、実践上で生じた課題に対して、家族生活力量やサインズ・オブ・セイフティといった理論や枠組みを活用しながら現状を整理し、支援策を考えることで、検討内容を可視化でき、解決策の糸口が見えてくることを学びました。

お忙しい中、ご参加いただいた皆様、大変ありがとうございました。このような事例検討を通して、これからも保健師の専門性や固有の支援技術について、皆様と探求していきたいと思えます。

新潟大学大学院保健学研究科 成田 太一（事務局）

2019年9月28日（土）に、第5回の新潟地域看護研究会としてシンポジウム、2020年2月1日（土）に第6回の新潟地域看護研究会として事例検討会を開催いたします。

皆様、是非ご参加ください。



新潟大学大学院保健学研究科地域看護学領域

主催：新潟大学大学院保健学研究科地域看護学領域
共催：新潟県 公益社団法人新潟県看護協会
全国保健師長会新潟県支部 新潟県職員保健師会
後援：新潟市 全国保健師長会新潟市支部

新潟地域看護研究会
〒951-8518 新潟市中央区旭町通 2-746
新潟大学大学院保健学研究科地域看護学領域
TEL: 025-227-0944（担当：成田）
Mail: chiiki@clg.niigata-u.ac.jp